

## MR ワクチンを受けましょう

2006.08.31

毎年8月は学校も幼稚園もお休みでクリニックは暇で・・・と、高校野球に没頭していることが多いのですが、後半になってヘルパンギーナや手足口病などの流行があり、また、ゼイゼイもちが咳が付き始めたこともあり、昨年よりはちょっぴり忙しい思いをしました。

今年の6月に予防接種法が改正になり、小学校にあがる前のお子さんに麻しん・風疹混合ワクチンの接種が始まりました。7月から8月にかけて道南の各自治体から年長さんのいる家庭に接種券が郵送されたり、あるいは各医療機関に出向いて接種を受けるようにというお便りが来ているはずですが。

麻しんは昔は「命定め」の病気といわれ、麻しんにかかった多くのお子さんの命を奪いました。麻しんのワクチンは昭和51年から制度化され、53年から一斉に接種が始まりました。ワクチンの接種により麻しんにかかる人と麻しんによって死亡する人は年々減少してきましたが、平成12年でもまだ10名前後の幼いこどもの命を奪っているのが現実です。麻しんにかかったこどもの2000人に一人が不幸にして亡くなっているという勘定になります。

1回のワクチン接種により、確かに麻しんの発生は減りました。平成13年には約3万人だった麻しんの報告は平成17年には545名と急速に減少しました。減少したのはいいのですが、麻しんの流行がこれだけ少なくなると、ワクチンの効果が長く続かなくなります。現に、今年は千葉県や栃木県などで局地的な麻しんの流行が起こっています。

このような流行が起こらないためにも、こども達が持っている麻しんに対する抵抗力をできるだけ維持しなければなりません。麻しんの局地的な流行が抵抗力を維持する役割をしていたのですが、それは同時に抵抗力のないお子さんの死を意味します。それはあまりにも問題があるということで、先進国の中では一番遅くにましんの（同時に風疹の）2回接種が始まったというのが、今回の通知になっているのです。

こどもの大切な命を守るワクチンを忘れないで受けてください。